2022 年度　事業報告書　　（令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン

2022 年度を振り返れば、まだおさまらないコロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻による世界情勢の不安、急激な円安による物価高騰が続き、ますます格差は拡大し暮らしは厳しくなりました。生活困窮の層も広がり、フードバンクに食料支援を希望される世帯は増加し、相談数も大きく増えました。

一方で国の補正予算、地方自治体の困窮者対策の予算、施策、助成金等も増える中で、他団体との連携も進み、ライフアゲインの事業は規模も領域も拡大していきました。

行政との連携事業としては、昨年度に引き続き「令和 4 年度困難を抱える女性に寄り添う緊急支援事業」を北九州市から受託しました。この受託事業の一環としてシンポジウム『一人じゃないって伝えたい』開催、生理の貧困対策事業「おもいやりぽけっと BOX プロジェクト」をスタートしました。

また、北九州市保健福祉課、市内の NPO など支援団体と実行委員会形式で「フードサポート北九州」を実施し、ライフアゲインが事務局を担い、理事長が実行委員長を務めました。また、フードサポート北九州の事業を通して、北九州市社会福祉協議会との連携も進みました。

一方、民間での連携も進みました。ホームスタート・ジャパンと連携し未就学児を養育する世帯と対象とした訪問型子育て支援事業「ホームスタート・ライフアゲイン」スタートすることが出来ました。

そして、北九州商工会議所食品部会からの呼掛けによる連携事業検討、バナナ受取り協力はじめ、2023 年度にむけての協働関係が強化されました。さらにライフアゲインの理解者・共感者・連携者を増やしていくために、動画「明日もいっしょに」を制作しました。

特筆すべきは、ライフアゲインの新しい施設「つきだテラス TOMONY」を開所したことです。2021 年度から協議をすすめ、北九州市との子ども食堂連携協定をベースに、北九州市施設「元槻田児童館」を子ども食堂等拠点施設として借り受けることができました。つきだテラス TOMONY には、1 階の食品保管スペースとして大型冷凍冷蔵庫を置き、2 階にはホール、和室、調理室が備わり、共助社会づくりの拠点として動き始めました。この施設の開設、運営には、主に JANPIA（一財財団法人日本民間公益活動連携機構：休眠預金等活用事業を推進する団体）ならびに WAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成金を活用させていただきました。

2022 年度は、ポーランド在住のライフアゲイン学習ボランティアを通して、ウクライナ支援活動を行うために「子どもたちに再び笑顔を！～ウクライナ支援活動のための募金」を行い、多くの方々に参加していただきました。

【フードバンク事業】

■フードバンク

2022 年度は、食品取扱量が 136.6 トンとなり、2021 年度比 124%となりました。なかでもクラダシからの寄贈 21.4 トンが全体に大きな影響を与えました。この食品はお腹いっぱい大作戦やフードサポー

ト北九州で配布しただけでなく、福岡県フードバンク協議会を通して３団体へも配布しました。

2021 年 10 月よりエフコープ西港支所様のご協力によりスタートした団体向けのフードパントリー（一斉配布会）も、毎月第３金曜日に開催しています（７月、８月、12 月を除く）。年間通して９回開催し、困窮者支援団体など約３０団体への食品支援を実施しました。

また、2022 年 11 月に開所した「つきだテラスＴＯＭＯＮＹ」の大型冷凍冷蔵庫により、同所においての冷蔵品・冷凍品のパントリー開催も逐次開催できるようになりました。

これら寄贈された食品は、食品を必要とされる子育て世帯、高齢者、困窮者、子ども食堂、福祉施設などに遅滞なく渡すことができました。

主な食品寄贈企業・団体（敬称略・順不同）…北九州市学校給食協会、日本製鉄関連各社、TOTO、クラダシ、日本生活協同組合連合会、コカ・コーラボトラーズジャパン、久原本家グループ本社、味の兵四郎、ドール、コストコ、フランソア、九食、響灘菜園、中川食品、イオン九州、丸久など

	2021 年度実績	2022 年度計画	2022 年実績
活動費	27,330,660 円	42,478,060 円	44,803,240 円
食品取扱量	110.1 トン	125.0 トン	136.6 トン
食品提供企業数（個人・寺以外）	173 社･団体	200 社・団体	188 社・団体
食品受取り施設	137 箇所	153 箇所	145 箇所
子育世帯食料支援数（期末数）	105 世帯	100 世帯	94 世帯
子育世帯支援総数	373 世帯	400 世帯	468 世帯
LINE 登録者数（期末数）	1757 世帯	2000 世帯	1843 世帯

■フードドライブ

SDG s の取組として社会的に認知されたフードドライブがさらにひろがり、フードドライブ開催拠点も更に増加しました。また、イオン九州など企業の協力により独自の物流ルートを利用して食品を集めていただくことが可能となりました。

フードドライブの回収に伴うボランティアスタッフとの情報共有として LINE グループを作成し、日程やスケジュールなどの共有ができるようにしました。

また、就労サポート支援事業団体「わーくネット北九州」と連携して、利用者による仕分け作業を定期的に行っていただいています。食品の仕分け作業にボランティアとして協力していただくとともに、それが就労支援にも繋がっています。

主なフードドライブ拠点（敬称略・順不同）…イオン九州 21、西日本シティ銀行 42、エフコープ生活協同組合７、イズミ（株）9、ゆめマート６、サンリブ４など

※市内各地のフードドライブの予定を、ライフアゲイン HP、北九州市 HP でお知らせしています。

＜フードドライブの推移＞

年度		拠点数	キロ数
２０１７年度	市内一斉フードドライブの集計	３１	８７６
２０１８年度		３２	１１５０
２０１９年度		２０	４９８
２０２０年度		１７	９１９
２０２１年度		２６	８９９
２０２１年度	全体の集計	９４	５５７６
２０２２年度	全体の集計	１０６	１３３７５

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
フードバンク事業	食品関連事業者及び個人から余剰食料を回収し、提供された食品を社会福祉施設、生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体、及び、子育て世帯、個人に提供する。実績数…136.6 トン	通年	全国	６人	112 施設 562 世帯	13,235 千円
	食品提供企業を開拓するために、福岡県フードバンク協議会、全国フードバンク推進協議会、全国子ども食堂支援センター”むすびえ”などと共同して企業開拓する。実績数…146 社			６人		
	フードドライブを実施し、提供された食品を社会福祉施設、生活困窮者の自立支援活動をする非営利団体、および、子育て世帯、個人に提供している。 ・市内一斉フードドライブ（9 月、1 月） ・企業などによる自主的なフードドライブ ・常設のフードドライブ拠点数も増加		市内 106			

【ファミリーサポート事業】

ファミリーサポート事業は、北九州全域における子育て要支援世帯を対象にして取り組んでいる事業です。北九州市 7 区に置かれた「いのちをつなぐネットワーク」や子ども家庭相談コーナーなどと連携して、要支援者への食品配布を継続しています。

■ライフアゲイン LINE 公式アカウント

ライフアゲインの LINE 公式アカウント登録者数は 1800 世帯ですが、前年度 LINE 公式アカウント登録者へ調査を行ったアンケートをもとに、ニーズに沿った定期的な情報提供を行いました。2022 年度の LINE 公式アカウント配信数は 23 回でした。

スマホが止められていても Wi-Fi 環境がある場所では LINE を利用できるため、双方向で交信できる LINE グループ登録者からは、食料支援の相談も LINE からたびたび入ってきており、セーフティーネットとしての機能を発揮しています。

■夏休み・冬休みお腹いっぱい大作戦

≪7 月夏休みお腹いっぱい大作戦≫

夏の配布は、企業等の協力を得て受取拠点を設け、子育て要支援世帯 1000 世帯へ拠点まで取りに来ていただく方法で食料配布を行いました。受取拠点は、サンキュードラッグ 10 店舗、エフコープ 4 店舗、寺社、教会 7 ヶ所、母子寡婦福祉会、健和会など市内に 24 ヶ所置きました。

また、箱詰め作業は、九州電力、大英産業、第一生命などの企業参加を含め、約 40 人のボランティアによって行いました。

≪12 月冬休みお腹いっぱい大作戦≫

冬の配布は、宅配会社に依頼して 1000 世帯へ一斉に宅送しました。宅送料 100 万円は、クラウドファンディングで調達しました。また、NPO 法人チャリティーサンタと連携して、絵本 800 冊をクリスマスプレゼントとしておくりました。

食品の箱詰め、絵本の配送準備には、西日本シティ銀行、サニーライフ、健和会、北九州高速鉄道、北九州市国際交流協会、こもれびなどからボランティア約 30 人の参加がありました。

■北九州市委託事業：「困難を抱える女性に寄り添う緊急支援業務」

≪相談事業≫

北九州市男女共同参画推進課から事業受託して体制も強化し、前年度月平均 35 件ほどの相談件数が 2022 年度は月平均 99 件と約 3 倍にもなりました。

≪おもいやりぽけっと BOX プロジェクト≫

何らかの事情で生理用品の入手が困難な、いわゆる「生理の貧困問題」について、当事者の声を聴き、そこからどのような形で手を差し伸べることが貧困から抜け出す一歩に繋がることができるのか、一緒に考えていくための企画として「おもいやりぽけっと BOX プロジェクト」を実施しました。

八幡図書館、エフコープ志井店、エフコープ沼店の 3 か所に協力いただき、無料で使える生理用品と寄付のためのボックスを設置しました。いずれの施設でも賛同のメッセージをいただき、寄付品も多数寄せられました。思いやりの気持ちが少しずつ循環しています。

≪シンポジウム「一人じゃないって伝えたい～行政と民間の助け合いの輪とつなぐシンポジウム」≫

11 月 19 日、レインボープラザでシンポジウムを開催しました。孤独・孤立に苦しむ人も増えている一方で、助け合いの輪も広がっていることを伝えようとするものでした。

参加者は 21 名、パネリストには行政・民間・当事者とそれぞれの立場から発言してもらい、会場参加者と共に意見交換を行いました。

■フードサポート北九州

この事業は「食からつながる生活相談会」として、孤独・孤立対策、困窮者対策に加えて物価高騰の影響を受けている住民を、さまざま相談につなぐために食料品などの無料配布を行いました。事業は、北九州市保健福祉局、孤独・孤立対策等連携協議会のメンバーを中心として実行委員会形式で実施され、ライフアゲインは事務局を担いました。フードサポート北九州は、拠点型と地域交流型の 2 形式で行い、大きな反響がありました。また、北九州市と市内の支援活動を行っている NPO などの連携も強まり、今後の包括的支援体制強化を予感させました。

≪拠点型フードサポート≫

・第 1 回…12 月 18 日（日）　ウェルとばた多目的ホール

利用者数　276 人（事前予約 196 人、当日受付 80 人）、

相談件数　21 件（就労、年金、就学費用、保育、障がい、親や自分の介護保険など）

・第 2 回…3 月 19 日（日）　ウェルとばた交流スペース

利用者数　281 世帯 850 人（事前予約 153 世帯 510 人、当日受付 128 世帯 340 人）

相談件数　32 件（就労、年金、就学費用、保育、障がい、医療費、実家の処分、転居など）

≪地域交流型フードサポート≫

地域交流型フードサポートは、北九州市社会福祉協議会へ事業委託され、3 地域で実施されました。

・若松区高須地区…2 月 25 日（土）　高須市民センター

・八幡東区（槻田、祝町、大蔵、高槻、高見、河内）…3 月 11 日（土）　つきだテラス TOMINY

・小倉北区（足立、足原、三郎丸、寿山、霧ヶ丘）…3 月 25 日（土）　希望のまち予定地

■ホームスタート・ライフアゲイン

乳幼児期の子育て家庭を支援する新規事業「家庭訪問型子育て支援・ホームスタート」の立ち上げにむけて、オーガナイザー 2 名、ホームビジター 5 名を養成し、つきだテラス TOMONY を拠点としてホームスタート・ライフアゲインを開設しました。

ホームビジター養成講座は 1 月 12 日から 2 月 28 日までの 8 日間、全 14 講座（37 時間）を実施しました。ホームビジターの募集や養成講座の講師依頼などを通して、行政や他団体にホームスタートについての説明や協力依頼を行い、広く共感してもらいました。4 月からの事業スタートを目指しています。

■つきだテラス TOMONY

共助の力を強めることで新しく生活を築いていく(人生再生=ライフアゲイン)ことを目的とし、女性や地域の人々を後押しできる場として、あらたな総合施設「つきだテラス TOMONY」を、2022 年 11 月に開所しました。

フードバンク事業における倉庫としての活用に加え、継続支援者の食品受け渡しと共にゆっくり相談にのれるようになりました。つきだマルシェや各種講座などのさまざまなイベント、地域コミュニティ促進の場としての「ゆったりルーム」設置、月 1 回の「みんな食堂 TOMONY」等を実施しています。ま

た、2022 年度度より取り組んでいる「ホームスタート・ライフアゲイン」の拠点施設としています。

開設時より 2022 度末までの施設延べ利用人数は 630 名で、1 日平均では約 8 名となっています。地域の市民センターや地元自治会、まちづくり協議会との連携も進んでおり、地域からの認知度の向上に応じて、利用頻度、利用者数も大きく伸びてきています。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
ファミリーサポート事業	つながり支援チームにより、食料支援を行っている子育て世帯に対して、面談あるいは食料配布時の対話を通してニーズを把握。実情に合った支援につなぐ。	年中	市内	6 人	市内の子育て要支援世帯 94 世帯	13,251 千円
	行政及び社協との連携…いのちをつなぐネットワーク、子ども家庭相談コーナー、社協との連携を強化しスムーズな連携を実現する。			6 人		
	LINE を活用したつながり支援を、情報提供や情報収集を充実させることで強化していく。			3 人	1900 人	
	長期休み前の食料配布（夏・冬休みお腹いっぱい大作戦）	7 月 12 月		60 人	1000 世帯 1000 世帯	
	包括的支援に向けての連携 ・フードサポート北九州（拠点型） ・フードサポート北九州（地域交流型）	 12、3 月 2、3 月		LA※からの参加者 40 人	市内の要支援個人 1200 人 900 人	

※LA:ライフアゲイン

【地域子ども支援事業】

■子ども食堂、地域食堂の運営

≪尾倉っ子ホーム≫

皿倉小学校区を中心に案内を行い、尾倉市民センターで開催しています。毎月第 2・4 水曜日の 17 時からの開催ですが、コロナの影響で、8 月 10 日、24 日、10 月 26 日、1 月 25 日は開催できませんでした。子ども参加人数は、おおむね 20 名以下でしたが、3 月の 2 回は 21 名、25 名と以前のにぎわい復活のきざしを見せています。一方で、子どもたちの参加については、コロナの影響を残しているためか低学年児童の新しい参加が少なく、次年度はもっと広がりを持たせたいと考えています。ボランティアも途切れなく参加していただいており、皿倉小学校の教師も毎回参加されていますが、大学生の参加が少なく課題と考えています。

≪ちゅうおうまち食楽福亭（たらふくてい）≫

八幡小学校区を中心に案内を行い、八幡中央区商店街広場で、毎月第 1 土曜日に開催しています。毎回約 60～70 人の参加があり、地域の企業や店舗の協力により多彩な企画を展開しています。（11 月は企業祭のため休止、1 月～3 月は寒冷期につきパントリーのみ実施）

今年度は、食楽福亭という子ども食堂をベースにしながら、その発展形として「わがまち大家族プロジェクト」を進めてきました。キャッチフレーズは「おかえり商店街」。移動式駄菓子屋を据え、子どもたちが支払いに使うのはお菓子券。商店主とのコミュニケーションの機会もつくり、地域づくりに巻き込んでいく工夫もしました。今後、地域コイン（子どもコイン）を作るなどの案も出されています。

≪みんな食堂 TOMONY≫

つきだテラス TOMONY での子ども食堂は、世代間のコミュニィ促進を目的とし、地域住民すべてを対象とした「みんな食堂」です。2023 年 3 月より実施、月 1 回の開催としています。

地元の自治会や町内会、生協との連携により、毎回定員を超える参加者数となっており、貴重な地域交流の場として大変喜ばれています。

■フードパントリーによる応援食品の配布

子ども食堂尾倉っ子ホームをベースにした皿倉小学校区フードパントリーは、奇数月の第 4 水曜日に実施しました。配布世帯は 9 月まで 30 世帯前後でしたが、12 月 14 日 40 世帯超、3 月 22 日は 50 世帯が参加しました。昨年からの食品類価格高騰の家計への負担は大きく、参加者には非常に喜んでいただけました。また、八幡小学校区パントリーは 1 月～3 月で実施し、30 世帯弱の配布でした。

■無料学習塾「ステップアップ塾ライフアゲイン」＆無料自習室「STUDYCAMP」

ステップアップ塾ライフアゲインと無料自習室スタディキャンプは、東京のステップアップ塾（NPO 法人ユネスコ維新隊運営）と連携して、2022 年度から開始しました。

2022 年 4 月に学生講師 11 名、生徒 15 名に登録していただき、1 年間無事に運営してきました。また、年度末の 3 月には、学校卒業や家庭の事情で塾を退会した生徒もいますが、2023 年度も継続の 8 名と新しく登録された講師、継続の講師含めて約 20 名で運営していきます。

■「君はかけがえのない宝物展 2022」

ライフアゲインと連携している施設、地域の子どもたちに、自分の夢や好きなことなど自由に描いてもらった 60 作品を 9 月に三井住友信託銀行、10 月に九州電力北九州支店、11 月に八幡中央区商店街ロータリーに展示しました。どれも思いがこもった作品で、作品に添えられた子どもたち一人ひとりのメッセージは輝いていて、見る人に元気を届けました。

■「わがまち大家族プロジェクト」

このプロジェクトは子ども食堂「ちゅうおうまち食楽福亭」をまちづくりのプラットフォームとし

て、食を通してまちをつなげ、誰一人孤立させず、まち全体で子育てをサポートする地域モデルを構築していこうとするものです。

月１回、まちづくりに関わる産官学民のメンバーがミーティングを重ね、子ども食堂が開催されている八幡中央区商店街をまちのわが家に見立て、「ただいまが言える町、おかえり商店街」をキャッチコピーにしてアイデアを練り、子どもたちと商店主・地域の方々をつなげる道具として地域コイン「ちゅうおうまちスマイレージ」の考案や移動式駄菓子屋を登場させ、子どもたちが楽しく商店主と交流し、商店街が子どもたちにとっての身近な居場所になるよう工夫しました。

■もがるかキッズクラブ

子ども達の自然体験を宗像市の農家さんが運営する「ちいさな森」との連携を中心に行っています。今年度は姉妹団体である一般社団法人ライフアゲインが運営する放課後等デイサービス「プレシャスONE」により田植え・稲刈り・もちつき等を企画して行い、NPO としては活動を一旦休止しました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
地域子ども支援事業	子ども食堂の運営 ・尾倉っ子ホーム　18 回開催 ・ちゅうおうまち食楽福亭　8 回開催 ・みんな食堂 TOMONY　1 回開催	第 2・4 水 第 1 土 第 3 土	八幡東区	30 人 70 人 8 人	817 人 659 人 38 人	5,184 千円
	・フードパントリー皿倉小学校区 ・フードパントリー八幡小学校区	年 6 回 1～3 月	市内	10 人 10 人	259 世帯 80 人	
	無料学習塾ステップアップ塾ライフアゲイン 無料自習室スタディキャンプ	毎土曜	市内 市内	11 名 6 名	15 名 5 名	
	君はかけがえのない宝物展 三井信託銀行、九州電力北九州支社、商店街	9 月～11 月	市内	4 人	60 人	
	わがまち大家族プロジェクト	月 1 回	中央商店街	20 人	八幡中央区商店街	

【災害発生時の総合的支援事業】

2022 年 2 月のロシアによるウクライナ侵攻により、子どもたちを含むウクライナ国民の多くは国外に逃れ難民とならざるを得ませんでした。隣国のポーランドに避難してきた多くのウクライナ人をポーランドでは暖かく迎え入れ、支援が続けられています。

ライフアゲインの学習支援でボランティアとして活動しておられたアニャ先生（ミスオウフスカ　アンナ　ルズミラ）から避難者の厳しい状況と、アニャ先生が支援活動を行っておられるという報告が入ってきました。これをうけてすぐに支援活動のための募金

を開始しました。ライフアゲインに寄せられた寄付金により、ウクライナから逃れポーランドで家族と離れて暮らしているウクライナの子どもたちの支援活動に広げることができました。

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
災害発生時の総合的支援事業	ウクライナ支援活動のための募金活動 集まった寄付金　約 105 万円	年中	全国	4 人	88 人 寄付者数	1,126 千円
	ウクライナ支援活動	年中	ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ	2 人	不特定多数	

【普及啓発事業】

■講演

コロナ前の講演会数（対面）は多い時で 60 回程でしたが、その頃に比較すると今年度は半減して 27 回の開催でした。また、特徴として教育機関からの依頼が多く、全体の 50%弱となる 14 回でした。コロナ禍で海外への修学旅行がむつかしかったためか、県内外の高校から修学旅行や研修旅行で当法人を訪れ、SDGs 教育の一環としての講演依頼が多くありました。

■イベントへの協賛

北九州ロックフェスティバル、北九州マラソン、こくらハロウィンに参加し、食品ロスの削減や啓発を行いました。

≪北九州ロックフェスティバル≫

会場のミクニワールドスタジアムでフードドライブを行い 133 kgの食品が集まりました。また、フェスティバル終了後には、飲食ブースで売り切れなかった食品を出口ゲートに集め、安価で食品を販売することで、食品ロスゼロを達成することができました。また、本フェスティバルでは、運営側が 300 枚の入場チケットを寄付してくださり、要支援親子や福祉施設の方々などを招待することができました。

≪北九州マラソン≫

北九州マラソンでは、7 ヶ所の〝おもてなしフード〟を用意するステーションをランナーが通過したあと、余った食品の回収にまわりました。最終的にバナナが約 150 本、メロンパンが約 1300 個、フィッシュソーセージ約 1300 本のロス食品を回収し、子ども食堂や自立支援施設、放課後等デイサービスなどへ提供しました。

≪こくらハロウィン≫

小倉北区役所から依頼を受け、協賛団体としてお菓子を提供しました。ハロウィンの参加受付地点にライフアゲインのパネルやのぼりを配置し、フードバンクの活動を広報する機会にもなりました。

■スタディーツアー

2021 年度はスタディーツアーの要請が多かったことを受けて、理事会メンバーでニーズに対応できる「スタディーツアー・プログラム」の検討を行いました。ライフアゲインだけでなく、SDG s をテーマとして学べる連携先を増やしていきました。これまでご協力いただいているコストコだけでなく、ジ・アウトレット、のうみ農園などが増えました。また、大学生との交流を希望される高校が多く、北九州市立大学生の協力を得ています。

スタディーツアーの実施数は、小倉高校はじめ 6 校でした。県外（神奈川県や京都府等）からも SDG s をテーマにした修学旅行先として北九州市を訪問、その中でフードバンクが研修先として選ばれています。

■ライフアゲイン広報動画『明日もいっしょに』

ライフアゲインの活動を貫いている考え方、本質を分かりやすく伝えるために動画『明日もいっしょに』を作成し、YouTube でアップしました。活動の現場の一人ひとりの声をつなぎ、ライフアゲインがなにをめざしているのか、伝わるものができあがりました。

動画　URL

■古本による寄付

「つなぐ書店」と連携した古本による寄付は、息の長い取組として継続しています。定期的に古本を回収して送ってくださる企業や、断捨離・終活で多くの本を送ってくださる個人の方など、合わせて 35 名の参加がありました。古本寄贈による寄付額は約 14 万円でした。

■ホームページ

≪ライフアゲインホームページ≫

ライフアゲインのホームページは、広報専任スタッフがいないため更新が追いついておらず、古い情報がそのまま放置されていたり、必要な情報が漏れていたりしています。広報の要でもあるホームページの充実を早急に図ることが求められており、次年度の大きな課題となっています。

≪つきだテラス TOMONY ホームページ≫

2023 年度 3 月に、つきだテラス TOMONY 独自のホームページを開設しました。施設の概要やつきだテラスで実施される各種イベント等の案内を行っています。

■マスメディア

コロナ禍に加え物価上昇が起こったことにより、支援を必要とする方々が増大し、その部分に焦点を当てた取材が増えました。夏休みや冬休みに行う 1000 世帯対象の応援食品配布「お腹いっぱい大作戦」や、無料学習塾の様子など困難を抱えている子育て世帯にスポットがあたりました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
普及啓発事業	講演会・講師派遣 フードドライブ説明会など　27 回	随時	県内	3 人	1500 人	3,546 千円
	スタディーツアー　6 回	随時	市内	14 人	180 人	
	2021 年次報告書「サンクスレポート」発行	9 月	全国	3 人	1800 人	
	ニュースレター発行　15 号 16 号	5 月 1 月		3 人	1800 人 1800 人	
	ウクライナ支援活動のための募金チラシ	5 月		3 人	3500 人	
	つなぐ書店と連携した古本による寄付	年中		2 人	35 人	
	令和 4 年度 WAM（独立行政法人福祉医療機構）助成事業報告書「明日もいっしょに」	3 月		3 人	500 人	
	ホームページ つきだテラスホームページ SNS	年中	Web	6 人	不特定多数	
	フードドライブ、ちゅうおうまち食楽福亭、イベントなどの開催時の広報	毎月	八幡東区	3 人	8500 人	
	募金箱、フードドライブ設置	年中	市内	3 人	不特定多数	
	メディア掲載（新聞、テレビ、など）	随時	全国	2 人	不特定多数	

【休眠預金等交付事業】

JANPIA（一般財団法人 日本民間公益活動連携機構）から提供される休眠預金等を原資とした助成事業「コロナ禍でも届く持続可能な食支援強化事業」を行いました。　（＊資金分配団体は、全国フードバンク推進協議会）

助成事業の内容は、つきだテラス TOMONY に大型冷凍庫・冷蔵庫をそなえ、ライフアゲインとして新たな物流の拠点を構えようとするものでした。また、その場所は、子ども食堂ネットワーク北九州との共用部分も含めて構想しました。フードバンクとして事業基盤強化し、LINE 公式アカウント登録者 1000 世帯への食品配布、継続的食料支援世帯への食料配布と見守り、フードサポート北九州事業への食品提供を可能にするなど、フードバンク事業基盤の充実により、これまで以上に必要な人に支援を届けられるようになりました。

定款の事業名	事業内容	実施時期	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
フードバンク事業（休眠預金等交付事業）	・プレハブ型冷凍庫・冷蔵庫の設置 ・駐車場のアスファルト舗装 ・施設改装	10 月 1 月 9 月～10 月	つきだテラス TOMONY	15 人 10 人 10 人		1,278 千円
	・継続的支援世帯への食料渡し	2 月～3 月		5 人	延 100 世帯	
	・冬休みお腹いっぱい大作戦の食品箱詰め発送 1000 世帯	12 月		60 人	1000 世帯	
	・フードサポート北九州、食品保管、配送拠点型 2 回（12 月、3 月）、地域交流型 3 回（2 月～3 月）	11 月～3 月		10 人	2000 人	
	・地域交流型フードサポート事業・八幡東地区の実施	3 月 11 日		40 人	250 人	